

日本気象学会 2009年度春季大会

会期：2009年5月28日（木）～31日（日）

会場：つくば国際会議場（エポカルつくば：茨城県つくば市竹園2-20-3, <http://www.epochal.or.jp>）

大会実行委員会担当機関：筑波大学生命環境科学研究科，宇宙航空研究開発機構，国立環境研究所，産業技術総合研究所，農業環境技術研究所，防災科学技術研究所

大会委員長：林 陽生（筑波大学生命環境科学研究科）

当日の会場への連絡先：大会実行委員会事務局（つくば国際会議場小会議室404）
TEL: 029-861-0610（直通：学会開催期間のみ有効）

会場案内図



交通の案内

- つくば駅・つくばセンターまで
 - ・つくばエクスプレス (TX)：「つくば駅」行きに乗車，終点「つくば駅」下車。
 - ・JR常磐線：「土浦駅」西口2番バス乗り場，「ひたち野うしく駅」東口1番バス乗り場より，「筑波大学中央」または「つくばセンター」行きバスに乗車，「つくばセンター」にて下車（ともに所要時間約25分）。
 - ・高速バス：東京駅八重洲南口の高速バス5番のりばより，＜つくば号＞「筑波大学」または「つくばセンター」行きに乗車，「つくばセンター」にて下車（所要時間約65分）。羽田空港第1・第2ターミナル1階到着ロビー13番のりばより，「つくばセンター」行きに乗車，終点「つくばセンター」にて下車（所要時間約80分）。
- つくば駅・つくばセンターからつくば国際会議場まで
ペデストリアンデッキ（歩行者専用道路）に昇り，直進（徒歩約10分）。

大会行事予定

A会場：大会議室101（1F）
 B会場：大会議室102（1F）
 C会場：中会議室406（4F）
 D会場：小会議室405（4F）
 ポスター会場：多目的ホール（1F）

総会・記念講演・シンポジウム：大ホール（1F）
 企業展示会場：多目的ホール（1F）
 受付：ロビー（1F）
 大会事務局：小会議室404（4F）
 懇親会：大会議室101・102（1F）

		A会場	B会場	C会場	D会場
5月 28日 (木)	10:00～ 11:30	気候システムI (7, A101～A107)	降水システムI (7, B101～B107)	エアロゾルI (8, C101～C108)	観測手法 (8, D101～D108)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (42, P101～P142)			
	13:30～ 17:00	専門分科会 (16, A151～A166) 「グローバルな雲・降水システムの研究の現状と将来」	専門分科会 (14, B151～B164) 「2008年夏季の局地豪雨」	専門分科会 (12, C151～C162) 「民間航空機が拓く新しい大気観測とそのデータ利用」	専門分科会 (6, D151～D156) 「広域スケールの大気-陸域間の相互作用と気候変動」
5月 29日 (金)	09:30～ 11:30	熱帯大気 (9, A201～A209)	降水システムII (8, B201～B208)	大気境界層I (9, C201～C209)	エアロゾルII (10, D201～D210)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (42, P201～P242)			
	13:30～ 15:20	総会			
	15:30～ 17:30	学会賞・藤原賞受賞記念講演			
	18:00～ 20:00	懇親会			
5月 30日 (土)	09:30～ 11:00	気候システムII (7, A301～A307)	降水システムIII (7, B301～B307)	気象予報 (8, C301～C308)	中層大気・対流圏界面 (6, D301～D306)
	11:00～ 12:00	ポスター・セッション (42, P301～P342)			
	13:00～ 16:30	シンポジウム「地球温暖化に関する科学的根拠の解明と脆弱性評価のさらなる連携に向けて」			
5月 31日 (日)	09:30～ 11:30	大気力学・中高緯度大気 (10, A401～A410)	降水システムIV (9, B401～B409)	大気境界層II (9, C401～C409)	台風 (9, D401～D409)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (42, P401～P442)			
	13:30～ 17:00	公開気象講演会 「数値予報の過去・現在・未来」	専門分科会 (10, B451～B460) 「GPS気象学と衛星観測データの利用」	気候システムIII (16, C451～C466)	

発表件数：373件（専門分科会58，口頭発表147，ポスター168）

当大会予稿集に掲載された研究発表の文章・図表を複製あるいは翻訳して利用する場合には、日本気象学会の文書による利用許諾を得た上で出所明示して利用しなければなりません。ただし著作者自身による利用の場合は、利用許諾の申請は不要です。

本プログラムの記載内容に関する問い合わせは、〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1気象研究所予報研究部内 講演企画委員会
 (e-mail:kouenkikaku2009s@mri-jma.go.jp) まで。

講演の方法

一般口頭発表・専門分科会

- ・ 一般口頭発表の講演1件あたりの持ち時間は11分（講演9分・質疑2分）です。
- ・ 専門分科会の各講演の持ち時間は分科会毎に決められています。詳細は各分科会のプログラムをご覧ください。
- ・ 講演にはPCプロジェクターとOHPが使用できます。
- ・ 止むを得ない事情で使用機器が講演申込時に予め届け出ていた機器と異なる場合は、セッション開始前までに座長と会場係にその旨を申し出て下さい。
- ・ PCプロジェクターを使用する際は予め以下の点をご了承ください。
 - ✓ パソコンは各自で準備して下さい。会場にはプロジェクターおよび接続ケーブルのみを準備します。
 - ✓ セッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。また接続が不安な場合は、セッション開始前に会場係に申し出て下さい。
 - ✓ 突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応することが

あります。携帯用メディアによるバックアップファイルの準備など、トラブルへの備えは講演者自身で行って頂くようにお願いします。

ポスター発表

- ・ 講演者はポスターに表題と著者名を明記して下さい。
- ・ ポスター発表の一人当たり使用可能面積は、縦210 cm×横90 cmとなっています。
- ・ ポスターを掲示する際には画鋏をお使い下さい（ガムテープ等はきれいに剥がせれば使用可能ですが、掲示面が布状なので接着しづらいかもしれません）。必要な画鋏等は講演者自身でご用意下さい。
- ・ ポスターの掲示可能時間は各日ともに9:30-16:30となっています。会場の都合上時間厳守でお願いします。
- ・ ポスター会場での機器の使用は講演申し込み時に申し出ていたもの以外は原則として認められません。
- ・ ポスター会場では電源は使用できません。

シンポジウム「地球温暖化に関する科学的根拠の解明と脆弱性評価のさらなる連携に向けて」

日時：大会第3日（5月30日）13:00～16:30

会場：つくば国際会議場 大ホール

司会：林 陽生（筑波大学生命環境科学研究科）

趣旨：

2008年に京都議定書の第一約束期間がスタートし、地球温暖化の負の影響を緩和することが強く意識される時代になった。これまでに、気象要素の将来予測、さまざまな分野への影響評価と影響緩和策の検討、温室効果ガス濃度安定化レベルの検討と削減技術の開発などの研究が行われる中で、共通の問題として、不確実性の導入と予測精度の向上が重要であることが認識されるようになった。本シンポジウムではこうした動向を背景とし、「予測」と「評価」のさらなる連携をテーマに取り上げる。最近では、地球温暖化に関する文部科学省や環境省などの大規模プロジェクト研究が実施されて新しい知見が得られつつある。そこで、空間的に詳細な気候シナリオの特徴と影響評価への活用の新たな可能性や、生態系などへの影響評価の際における、気候値の時間的代表性の考え方などについて議論を行うとともに、あわせて参加される方々の理解が深まることを期待して開催する。

基調講演：

- 1) 「影響評価に関する最近の成果と温暖化の危険な水準」
三村信男（茨城大学／地球変動適応科学研究機関）
- 2) 「森林植物の分布を規定する気候要因の特定および気候変化に伴う生育地の移動予測」
田中信行（森林総合研究所）
- 3) 「気候モデルの出力をどう使うか？」
楠 昌司（気象研究所 気候研究部）
- 4) 「温暖化予測をいかに捉えるか マルチ気候モデル比較によるアプローチ」
高薮 縁（東京大学気候システム研究センター／海洋研究開発機構 地球環境観測研究センター）

総合討論

総 会

日時：大会第2日（5月29日）13:30～15:20

会場：つくば国際会議場 大ホール

議事次第

1. 開会
2. 議長選出
3. 理事長挨拶
4. 2009年度学会賞授与
5. 2009年度藤原賞授与
6. 議事
 - (1) 2008年度事業報告
 - (2) 2008年度収支決算報告
 - (3) 2008年度監査報告
 - (4) 理事の辞任に伴う後任の推薦について
 - (5) 地球惑星科学連合への団体会員としての加盟について
 - (6) 2009年度事業計画案
 - (7) 2009年度収支予算案
 - (8) その他
7. 議長解任
8. 閉会

専門分科会の概要紹介

2009年度春季大会では下記の通り、5件の専門分科会が開かれます。

グローバルな雲・降水システムの研究の現状と将来

日時：大会第1日（5月28日）13:30～17:00

場所：A会場

趣旨：IPCC第4次報告書において、放射強制力における雲エアロゾルの影響や、温暖化の降水システムへの影響に不確定要素が大きいことが指摘されている。これらに対してTRMMの熱帯降雨の長期観測、AMSR-Eの全球水循環観測、CloudSatの雲エアロゾル観測などがあり、個別には様々な成果が得られている。雲解像全球モデルの分解能向上により、衛星データの比較や同化が現実的となる一方で、モデル結果の検証には高分解能な衛星データが必須である。既存衛星のデータは着実に蓄積されつつあり、観測・解析と全球雲解像モデル等をあわせた、総合・横断的な研究を行う素地ができてきた。将来的にも、2013年頃にGCOM-W/C, EarthCARE, GPM等の衛星が揃い、観測の継続が見込まれる。そこで、本専門部会を通じて、これらの総合・横断的な研究発表により現状を俯瞰し、将来を展望する。さらに、その次の世代のミッションへの提言も集約したい。

コンビナー：沖 理子（宇宙航空研究開発機構）、青梨和正（気象研究所）、中島映至（東京大学気候システム研究センター）、藤吉康志（北海道大学低温科学研究所）、佐藤正樹（東京大学気候システム研究センター）、井口俊夫（情報通信研究機構）

2008年夏季の局地豪雨

日時：大会第1日（5月28日）13:30～17:00

場所：B会場

趣旨：2008年夏季に頻発した局地豪雨は、各地に浸水害や土砂災害をもたらし、交通機関などにも深刻な影響が出た。神戸市灘区や東京都豊島区、愛知県岡崎市などでは、死者を伴う被害が発生し、「ゲリラ豪雨」などと報道され社会的にも大きな問題となった。局地豪雨は、一般に予測が困難とされているが、現在の技術水準からは、数値予報によるポテンシャル予測、ナウキャストによる実況把握、雲解像モデルによる積乱雲のシミュレーションについては、あ

る程度可能になっている。その一方で、防災情報につながる定量的な予測に関しては、多くの技術的課題が残っている。この分科会では、観測・解析・ナウキャスト・モデル・データ同化・アンサンブル予報・防災情報などについて局地豪雨に関する話題を募り、現時点での到達点を確認するとともに、将来的な局地豪雨予測の実現に向けてどのようなアプローチや研究者間の協力が必要か、について議論したい。

コンビナー：斉藤和雄、石原正仁（気象研究所）、岩波 越（防災科学技術研究所）、川畑拓矢（気象研究所）

民間航空機が拓く新しい大気観測とそのデータ利用

日時：大会第1日（5月28日）13:30～17:00

場所：C会場

趣旨：民間航空機を大気観測に利用するには安全上の制約が大きい。コスト、観測領域、観測頻度などの面では非常に有効な観測プラットフォームである。日本では1970年代の終わりから東北大学が民間航空機による温室効果ガス観測を続けている。2005年末からは、日本航空の運航する大型旅客機を使ったCO₂濃度の連続測定が実現し、これまでにない頻度で世界各地の鉛直分布や水平分布に関する膨大なデータが得られている。これらのデータは炭素循環の解明に貢献するばかりでなく、温室効果ガス観測衛星の検証データとしても極めて有用である。さらに、CO₂データを大気輸送のトレーサとして解析することによって、気象学の分野への新たな活用も期待できる。本分科会では民間航空機の特徴を活かした観測研究について幅広く話題を募集し、観測手法、データ解析手法や解析結果について議論すると共に、新たなデータ利用の可能性についても意見を交わしたい。

コンビナー：町田敏暢（国立環境研究所）、中澤高清（東北大学大学院理学研究科）、松枝秀和、澤 庸介（気象研究所）

広域スケールの大気-陸域間の相互作用と気候変動

日時：大会第1日（5月28日） 13:30～17:00

場所：D会場

趣旨：陸面の熱・水・物質交換は気候システムにおいて重要な役割を果たしており、近年の地球システムモデルでも必須のコンポーネントとなっている。しかし、生態系の複雑性や不均質性、人間活動による影響のため広域スケールの評価は難しく、予測の不確実性の一因になっている。衛星観測に代表されるモニタリング、フラックス観測などの現地観測、そしてモデリングによる統合的研究が必要である。本分科会では、陸域プロセスの熱水収支や物質交換について、観測とモデル両面からの研究紹介の講演が行われる。最後の総合討論において、今後の方向性や新たな研究協力の可能性について議論を行う。

コンビナー：伊藤昭彦（国立環境研究所）、馬淵和雄（気象研究所）

GPS気象学と衛星観測データの利用

日時：大会第4日（5月31日） 13:30～17:00

場所：B会場

趣旨：前回の「GPS気象学」の専門分科会から7年が経ち、地上型GPS観測では、リアルタイム解析を用いた研究が始まり、気象庁では天頂遅延量が同化データとして現業利用されつつある。掩蔽型GPS観測でも、衛星6基からなるCOSMICが打ち上げられ、全球データベースや同化実験が行われるなど、「GPS気象学」は新しい展開を見せている。この時期に合わせ、「GPS気象学と衛星観測データの利用」というタイトルで専門分科会を開く。専門分科会では、NCARのKuo博士、GFZのWickert博士に基調講演をお願いして、GPSデータなどを用いた解析・同化実験等の応用についての世界の研究の動向を報告していただくとともに、日本からも招待した研究者や発表希望する研究者から、最新の成果を発表してもらって、情報・意見交換をおこない、今後の展望についての意見等を共有する。講演者には英語による講演、もしくはパワーポイントの英語化をお願いすることがあります。

コンビナー：瀬古 弘、小司禎教（気象研究所）、市川隆一（情報通信研究機構）

公開気象講演会のお知らせ

※公開気象講演会への参加は無料・事前の申込も不要です。

日時：2009年5月31日（日）（大会第4日） 13:30～17:00

場所：つくば国際会議場 大会議室101（大会A会場）

主催：社団法人 日本気象学会 教育と普及委員会

数値予報開始50周年記念行事実行委員会

趣旨：日本における数値天気予報の現業運用は、2009年に開始から50周年を迎えることから、日本気象学会2009年度春季大会の開催に合わせて、「数値予報の過去・現在・未来」と題して一般の方々に向けた公開講演会を開催します。日本における数値予報の現業運用は、気象庁が当時最新鋭の電子計算機IBM704を導入し、1959年6月に開始しました。以来、数値予報はめざましい進化を続けて天気予報に欠かせない技術となり、今後も更なる発展が期待されます。今回の公開講演会では、数値予報に関わりの深い方々から、

数値予報の歴史と最新の技術、そして今後の数値予報への期待について、一般の方々にもわかりやすい内容でお話ししていただきます。

テーマおよび講演者：

1. 「数値予報の歴史」
元気象庁長官 新田 尚氏
2. 「最新の数値予報」
気象庁数値予報課数値予報班長 小泉 耕氏
3. 「今後の数値予報への期待」
東京大学気候システム研究センター教授 木本昌秀氏

問い合わせ先：経田正幸

TEL：03-3212-8341（内線3321、気象庁数値予報課内）

大気科学の将来展望と若手研究者問題に関する検討会のお知らせ

日時：2009年5月30日（土）（大会第3日） 17:00～20:00

場所：つくば国際会議場 大会議室101（大会A会場）

趣旨：日本気象学会と日本学術会議地球惑星科学委員会IAMAS小委員会は共同で、近年深刻さを増している若手研究者に関する問題と将来展望を議論する会合を、春季大会に合わせて以下の通り開催します。会合ではまず、昨年3月に実施した若手研究者に関するアンケート調査の集計結果や多くの方々から寄せられた貴重なご意見、及びそれに基づく状況分析を主催者側からご紹介します。続いて、アンケート結果を若手研究者の立場から分析した結果を紹介して頂きます。こうした報告と分析を受けて、我々が

現在抱える諸問題について検討し、その解決に向けた方策や大気科学の将来展望などについて、参加者全員で議論したいと考えています。なお、会合のプログラムやアンケート調査結果とその分析については、大会前までに気象学会ホームページに掲載します。会合に参加して下さる皆さんには、事前にアンケート調査結果に目を通して頂けると当日の議論が盛り上がると思います。若手研究者や大学院生の皆さんからの積極的なご発言を期待しています。

コンビナー：中島映至、中村 尚、青木周司、河村公隆、里村雄彦、中根英昭、村上正隆、遊馬芳雄

研究会のお知らせ

何れも参加は無料・事前の申込も不要ですので、興味のある方はご自由にご参加下さい。

惑星大気研究連絡会

日時：2009年5月27日（水）（大会前日） 13:30～18:00

場所：つくば国際会議場 中会議室406（大会C会場）

内容：日本の金星気象衛星 PLANET-C の打ち上げを来年にひかえ、科学的成果の最大化に向けた観測機器やデータ解析体制の準備が大詰めを迎えています。同時に、日本の次期惑星探査の候補として、周回衛星と着陸機で構成される火星ミッションの具体的検討が始まるなど、日本における惑星科学への感心が高まりつつあります。今春の惑星大気研究連絡会では、PLANET-C によって得られる観測データとその有効な利用方法、ミッションの「成功」に向けた国内外の研究協力体制の構築など、ミッションの具体的内容について突っ込んだ議論を行う予定です。火星探査の実現に向けた、大気科学コミュニティとしての取り組みなどについてもあわせて議論したいと思います。講演および質疑応答には十分な時間を確保したいと思いますので、惑星大気の研究者はもちろん、初学者の皆様、惑星大気に興味をお持ちの幅広い分野の皆様のご参加をお待ちしております。研究会の詳しい内容については惑星大気研究連絡会ウェブページでお知らせ致しますので、下記 URL をご覧ください。

開催支援：惑星科学研究センター（CPS）/ 神戸大-北大 G-COE プログラム

世話人：高木征弘（東大理）、今村剛（JAXA宇宙科学研究本部）

連絡先：高木征弘（東大理）

TEL：03-5841-4285, FAX：03-5841-8791

E-mail：wtk-staff@gfd-dennou.org

URL：http://wtk.gfd-dennou.org/

極域・寒冷域研究連絡会

日時：2009年5月28日（木）（大会第1日）18:00～2時間程度

場所：つくば国際会議場 中会議室406（大会C会場）

話題：海水を考えるー海洋と大気の熱交換ー

「海水～大気海洋系の白い黒幕～」

本田明治 (JAMSTEC FRCGC)

「衛星データによる北極・南極での海水生産量・熱塩フラックスのマッピング」

田村岳史 (北大低温研)

「海洋観測から見た北極海アラスカ沖での海水・高密度水形成」

伊東素代 (JAMSTEC IORGC)

「海洋データ同化システムを用いた北太平洋底層昇温と南極沿岸域海面フラックス変動に関する研究」

増田周平 (JAMSTEC FRCGC)

「コメント：海水域の広域の熱フラックスの定量的見積もりについて」

川合義美 (JAMSTEC IORGC)

内容：海水への関心が科学的にも社会的にもこれまでになく高まっています。温暖化予測実験を超えるスピードで

進行する夏季北極海の海水減少に目を奪われがちですが、海水の拡大期にあたる冬季の海水生成量の時間空間変動について改めて議論したいと思います。海面から大気への熱の移動に伴う海水の生成によって、気層液層間に固層が入る3層構造となり、大気海洋間の熱・運動量・物質の輸送は大きく変化することになります。熱交換の抑制は特に大気場へ影響を及ぼし、また海水生成に伴う塩分排出による高密度水の形成は海洋熱塩循環の駆動源になるなど、いくつかの新しいプロセスを生み出します。また、極域での温暖化は冬に顕著に現れるという将来予測を鑑みると、両極での海水生成量の経年変化や海洋への影響に関する知見は気候システムを理解する上で重要です。今回は、初めに大気-海洋系を中心に気候系における海水の役割・位置づけについて、続いて海水生成、高密度水形成、海洋熱塩循環への影響について衛星・観測・モデル研究に基づく最新の知見を3件、最後に海水域の熱フラックスの見積もりについて、5名の方々に話題提供をお願いしました。海水を通じて北極・南極での気候システムの俯瞰とその変動について議論したいと思います。

代表：山崎孝治（北大院地球環境）

世話人：平沢尚彦（極地研）、中村 尚（東大院理）、浮田甚郎（新潟大自然科学）、高田久美子（FRCGC）、阿部彩子（東大気候システム）、佐藤 薫（東大院理）、本田明治（FRCGC）、齋藤冬樹（FRCGC）、高谷康太郎（FRCGC）、猪上 淳（IORGC）

URL: http://polaris.nipr.ac.jp/~pras/coolnet/cl_index

問い合わせ先：猪上 淳（IORGC）

TEL：046-867-9483, FAX：046-867-9455

E-mail：jun.inoue@jamstec.go.jp

第6回統合的陸域圏研究連絡会

日時：2009年5月30日（土）（大会第3日）18:00～20:00

場所：つくば国際会議場 小会議室403（4F）

内容：「統合的陸域圏研究連絡会」においては、陸面を中心とする大気境界層から土壌内に渡る陸域圏を主な研究対象とし、以下の目的により活動を行っています。

＊陸域圏における物理的、生物的諸過程の理解に向けた、

広い視野に立った研究のための情報交換、

＊陸域圏を対象とした基礎的なメカニズムの理解と、他の圏との広域的・長期的相互作用システムの解明

＊直接観測、間接観測、およびモデリングの融合

＊空間的・時間的スケール間ギャップの問題の解決

＊正確な現状の認識と、実質的に意味のある手法の開発

＊それらのための研究協力関係の構築

今回は熱帯域を対象とした研究を全体テーマとして、4名の招待講演者による講演を中心に研究会を開催いたします。

講演者および講演題目：

平野高司（北海道大学）

「熱帯泥炭林の炭素収支」

田中克典（地球環境フロンティア研究センター）

「熱帯域森林の蒸発散の季節変化」

蔵治光一郎（東京大学）

「アジア熱帯域における降水の時空間的変動の特徴と陸域過程」

小杉緑子（京都大学）

「陸域生態系モデルにおいて特に考慮すべき熱帯雨林のガス交換特性とは」

世話人：馬淵和雄（気象研），大谷義一（森林総研），青木輝夫（気象研），奈佐原（西田）顕郎（筑波大），伊藤昭彦（環境研），佐藤 永（FRCGC），大石龍太（東大気候システム）

代表連絡先：馬淵和雄（気象研）

TEL：029-853-8732, FAX：029-855-7240,

E-mail：kmabuchi@mri-jma.go.jp

オゾン研究連絡会

日時：2009年5月30日（土）（大会第3日）17:00～19:00

場所：つくば国際会議場 中会議室201B（2F）

内容：2009年1月に温室効果ガス観測技術衛星「いぶき（GO SAT）」が打ち上げられました。今回は、「いぶき」に搭載されたTANSO センサの初取得データについて、JAXA などの方に速報的なお話をして頂く予定です。

世話人：笠井康子（NICT），川上修司（JAXA），河本 望（RESTEC），永島達也（環境研），高島久洋（FRCGC），村田 功（東北大院環境科学）

連絡先：村田 功（東北大院環境科学）

TEL：022-795-5776, FAX：022-795-5775

E-mail: murata@pat.gp.tohoku.ac.jp

気象教育懇談会

日時：2009年5月30日（土）（大会第3日）17:00～19:00

場所：つくば国際会議場 小会議室303（3F）

テーマ：「地球温暖化をどう教えるか」

講演者：伊藤公紀（横浜国立大学 工学研究院 教授）

江守正多（国立環境研究所 地球環境研究センター

温暖化リスク評価研究室長）

内容：地球温暖化については、学校や日常生活の中で耳にする機会が多く、今日では小学生でもなじみ深い言葉となっています。しかし、そのしくみを科学的に理解せずに、短絡的で間違った理解をしている子供たちも数多く見られます。これは気候変動や地球温暖化問題の複雑なしくみを科学的に分かりやすく十分説明できていないということに原因があると考えられます。一方で、長期的な気候変動の原因や地球温暖化は、未だに解明されていない問題でもあり、確定した真実として教えることができないという難しさもあります。今回は、地球温暖化について様々な観点から発言されている研究者の方から話題提供していただき、科学的に分かりやすく教育するためにはどのような視点が必要なのか、また、未解明な点を多く含む地球温暖化をどのように教育していけばよいのかについて、意見交換したいと思います。教育関係者に限らず、幅広い皆様のご参加をお待ちしております。

問い合わせ先：教育と普及委員会 担当 畠山正恒（聖光学院 中学高等学校）E-mail：hatakeya@hotmail.com

大会期間中の保育支援について

大会実行委員会では、大会期間中の保育施設として、下記2件を紹介致します。

(1) チャイルド・クラブ・パンセ

〒305-0051 茨城県つくば市二の宮1-21-3 グランドパレスNS-1 102号室

TEL：029-861-1500, FAX：029-861-1700

URL：http://www.e-tsukuba.jp/childclub/

(2) チャイルドランドつくば

〒305-0051 茨城県つくば市二の宮3-2-11 平田ビル3F

TEL：0120-38-8373, 029-849-2020

URL：http://www.e-tsukuba.jp/child/

これらの施設、及びその他保育施設の利用にかかる費用を一部補助致します。保育支援を希望される方は、2009年5月8日（金）までに下記担当者までご連絡下さい。また、それ以降の問い合わせにもできる限り対応致します。

連絡先：足立幸穂（筑波大学生命環境科学研究科）

E-mail：sachioa@geoenv.tsukuba.ac.jp, TEL：029-853-5692

秋季大会の予告

2009年度秋季大会は、2009年11月25日（水）～27日（金）にアクロス福岡で開催される予定です。